



News Release

バイエル薬品株式会社
広報本部
〒530-0001
大阪市北区梅田 2-4-9
TEL 06-6133-7333
www.bayer.co.jp/byl

月経(生理)に対する“思い込み”と我慢“が招く、婦人科受診へのためらい

バイエル薬品、一般女性を対象とした「過多月経の意識・実態調査」結果を発表

- 一般女性の約4割に過多月経症状がみられる。症状のある女性では月経のたびに外出や仕事に支障・制限をきたしている。
- 多くの女性が過多月経であると自覚するための判断基準を持ち合わせていない。症状がある女性の約7割が、「自分の経血量が多いかわからない」「正常範囲内だと思う」と回答。
- 過多月経症状がある女性の婦人科受診率はわずか15%、月経に関する誤った認識や婦人科受診への抵抗感が顕著に現れる。婦人科を受診しない理由について、「病院へ行くほどひどくない(62.5%)」「自分の経血量は特に多くないと思う(33.6%)」など回答。

大阪、2015年2月23日 — バイエル薬品株式会社(本社:大阪市、代表取締役社長:カーステン・ブルン、以下バイエル薬品)は、18~45歳の月経のある一般女性約4,500名を対象とした過多月経(月経過多)の意識・実態調査を実施しました。本調査は、バイエル薬品が婦人科疾患領域における患者さんの生活の質の向上に貢献すべく行っている情報提供活動の一環として実施したものです。

女性のライフスタイルや価値観が昔と大きく変化している現代。現代女性では妊娠・出産回数の減少傾向より、生涯に経験する月経回数は増加しており、月経関連のトラブルや婦人科疾患は増加傾向にあると考えられています。経血量や周期の乱れ、月経痛などから思わぬ病気が見つかることもあり、月経は女性の健康のバロメーターであるといわれています。しかしながら月経に関する話題は家族・友人などごく身近な方としか相談されない傾向にあり、月経に対する思い込みや誤解が生まれやすい状況にあります。

重い貧血や倦怠感、動悸、息切れなどが引き起こされる過多月経では、月経のたびに外出や仕事が妨げられ、クオリティ・オブ・ライフ(生活の質)の低下へも影響します。今回の調査結果からは、一般女性の約4割に過多月経の症状が報告された一方で、その症状を持つ女性の約7割が「自分の経血量が正常かわからない」「自分の経血量は正常の範囲内」と回答しており、多くの女性が症状を自覚するための判断基準を持ち合わせておらず、症状を自覚していても我慢するものと放置していることが示唆されています。

本調査結果を受けて、倉敷平成病院 婦人科 太田郁子先生は次のように述べています。

「私たちは、健康診断で貧血を指摘されてもつい放置してしまいがちですが、貧血の原因として婦人科疾患の“過多月経”がある場合があります。過多月経の原因は、子宮筋腫、子宮腺筋症などの子宮の病気であることも多く、放っておくとこれらの病気が悪化する可能性があります。また過多月経により貧血状態になることで心臓に負担がかかり、動悸、息切れなどを引き起こします。さらに重い貧血が長期に続くことによって、心不全に至るケースもあります。ご自身の月経について正しい知識を持っていただき、過多月経の症状がある、もしくは、健康診断などで貧血を指摘されたことのある女性は、決して我慢せずに早めに婦人科を受診していただきたいと思います。」

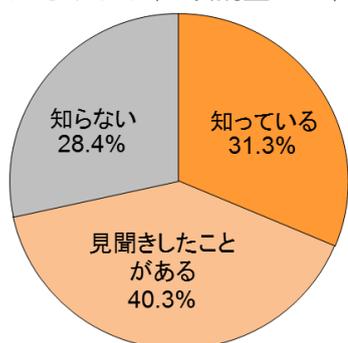
主な調査結果は次のとおりです。

“過多月経”や“過多月経・婦人科疾患と貧血との関係性”についての認知は約3割

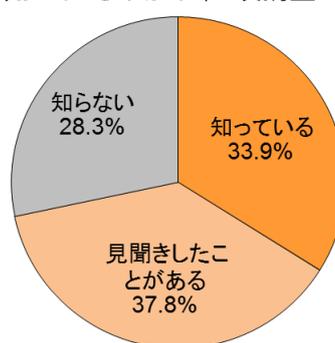
<過多月経に関する意識・実態調査結果①：一次調査>

18~45歳の月経のある一般女性を対象とした一次調査では、「**過多月経(月経過多)**」という言葉や「**婦人科疾患が貧血の原因になる**」ということをそれぞれ31.3%、33.9%の女性が「知っている」と回答しており、3割程度にとどまりました。女性に見られる鉄欠乏性貧血の原因として最も多いのは過多月経であることと、その背後にある過多月経・婦人科疾患との関係性が、女性の間で十分に認知されていないことがうかがえます。

過多月経(月経過多)という言葉を知っていますか？(一次調査 n=4,413)

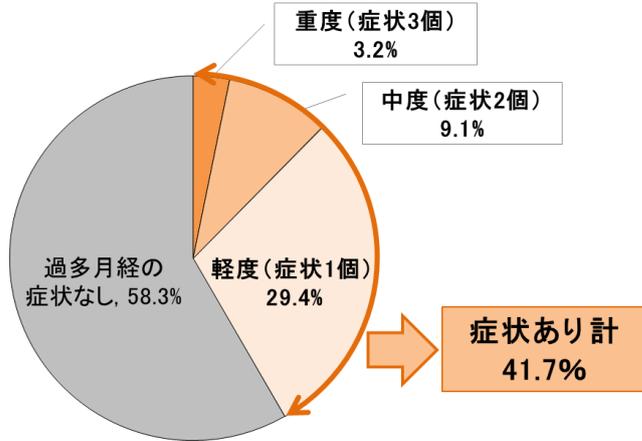


婦人科の疾患が原因となって、貧血になることがあるということを知っていますか？(一次調査 n=4,413)



月経のある一般女性全体の41.7%が以下のような**過多月経の症状が1つ以上当てはまる**と回答し、約4割もの女性で過多月経症状が認められる結果となりました。

過多月経 症状の有無 (一次調査 n=4,413)



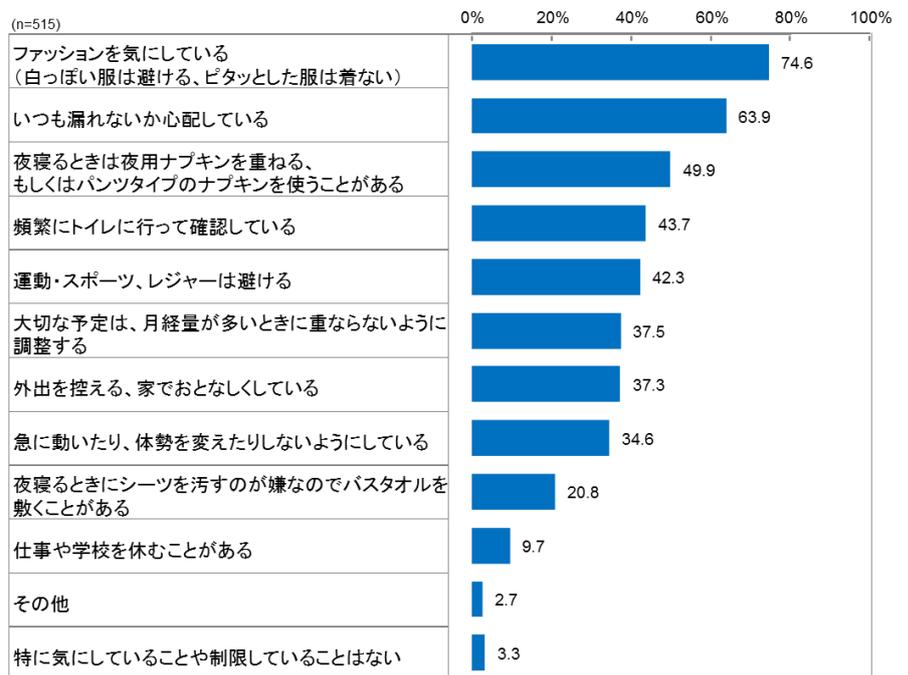
<過多月経の症状>

- ✓ 昼でも夜用ナプキンを使う日が3日以上ある
- ✓ 普通のナプキン1枚では1時間もたない
- ✓ 経血にレバー状の大きなかたまりが混じることがある

月経時に気にしていることや制限していることは「特にない」と答えた女性はわずか 3.3%
 <過多月経に関する意識・実態調査結果②: 二次調査>

過多月経症状のある女性を対象に実施した二次調査で、月経時に生活や行動で気にしていることや制限していることについて尋ねたところ、「ファッションを気にしている(74.6%)」「いつも漏れないか心配している(63.9%)」「夜寝るときは夜用ナプキンを重ねる・パンツタイプのナプキンを使うことがある(49.9%)」が上位に上がり、またその他にも「運動、スポーツ、レジャーは避ける(42.3%)」「外出を控える、家でおとなしくしている(37.3%)」「仕事や学校を休むことがある(9.7%)」などの回答がありました。月経は外出や仕事に支障・制限をきたし、クオリティ・オブ・ライフ(生活の質)の低下へも影響していることがうかがえます。

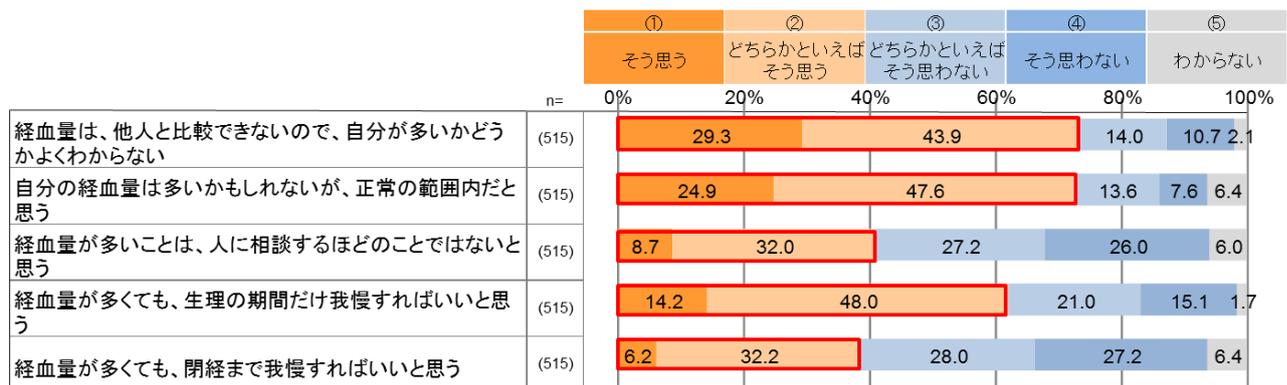
月経時の生活や行動で気にしていることや制限していることはありますか?(n=515)
 (※「特に気にしていることや制限していることはない」を選択した場合を除き、複数回答)



過多月経症状のある女性の約4人に3人が「経血量が多いのかわからない」「正常の範囲内」と回答、過多月経症状を自覚するための判断基準を持ち合わせていない
 <過多月経に関する意識・実態調査結果③： 二次調査>

過多月経症状のある女性に「自分の経血量が多いのかわからない」「自分の経血量は正常の範囲内だと思う」かどうかを質問したところ、それぞれ73.2%、72.5%が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答しており、約4人に3人が経血量が多いことを問題視していないことがわかりました。また「経血量が多くても、生理(月経)の期間だけ我慢すればよいと思う」かどうか質問したところ、62.2%が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答し、6割を上回りました。他の女性と比べて自分の経血量が多いか、少ないかというのはわかりにくいものであり、多くの女性が過多月経症状であると自覚するための判断基準を持ち合わせておらず、症状を自覚したとしても「我慢するもの」と考えていることが浮き彫りになりました。

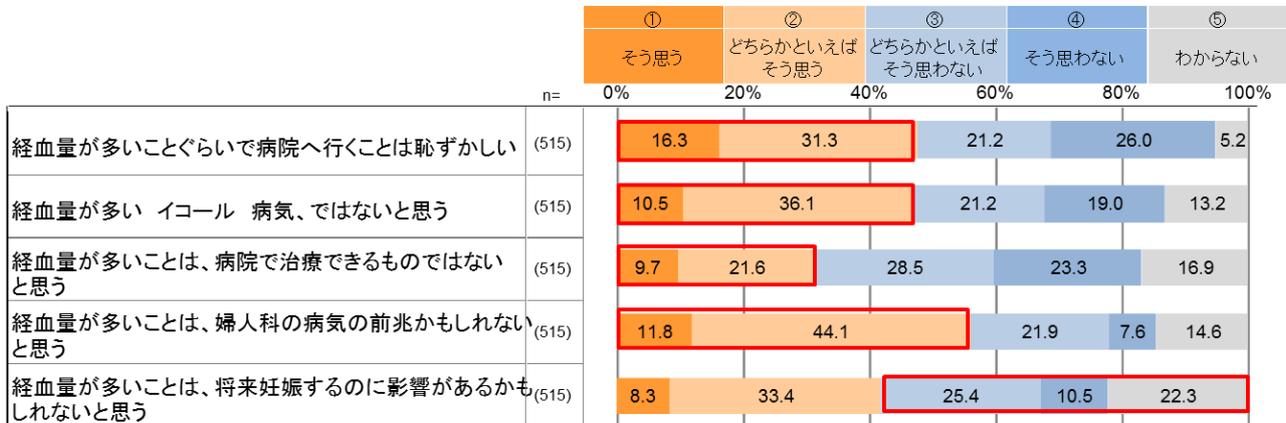
月経時の経血量に関して、以下の項目ごとにあなたの考えに近いものを選んでください。(n=515)



過多月経症状のある女性の約半数が「病院へ行くことは恥ずかしい」「病気ではない」と回答。約2人に1人が過多月経症状での受診に抵抗感を示す
 <過多月経に関する意識・実態調査結果④： 二次調査>

過多月経症状のある女性に「経血量が多いことくらいで病院へ行くことは恥ずかしい」と思うかと質問したところ、47.6%が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答しており、約半数の女性は過多月経症状で病院を受診することに抵抗感を持っていることがわかりました。さらに「経血量が多いことは将来妊娠するのに影響があるかもしれないと思う」と質問したところ、58.2%が「どちらかと言えばそう思わない」「そう思わない」「わからない」と答え、約6割にものぼりました。過多月経に関連した婦人科疾患や妊孕性(妊娠しやすさ)への影響の可能性に対し、正しく理解していない女性が多いことがわかりました。

月経時の経血量に関して、以下の項目ごとにあなたの考えに近いものを選んでください。(n=515)



過多月経症状のある女性の約 8 割で、以下のような貧血に関連した症状がみられた
 <過多月経に関する意識・実態調査結果⑤： 二次調査>

過多月経症状のある女性に貧血に関連する症状があるかどうかを質問したところ、「つかれやすい、体のだるさを感じる (61.2%)」「めまいや立ちくらみ、動悸や息切れがする (52.8%)」「頭痛や頭が重い感じがする (51.5%)」が上位にあり、これらの貧血に関連する症状がある女性は 80.6%* にものびりました。

<貧血に関連した症状>

- ✓ めまいや立ちくらみ、動悸や息切れがする
- ✓ つかれやすい、体のだるさを感じる
- ✓ 頭痛や頭が重い感じがする

また、「血液中の鉄(Fe)が少ないといわれている」「検診や人間ドックなどで、貧血と指摘されている」など、すでに貧血の診断を受けている女性は 23.3%** にとどまり、その中の約 4 人に 3 人(72.5%)は婦人科に相談したことはない」と答えています。貧血の症状があっても実際には診断される機会は限られており、また診断を受けていても婦人科を受診している女性が少ないことがうかがえます。

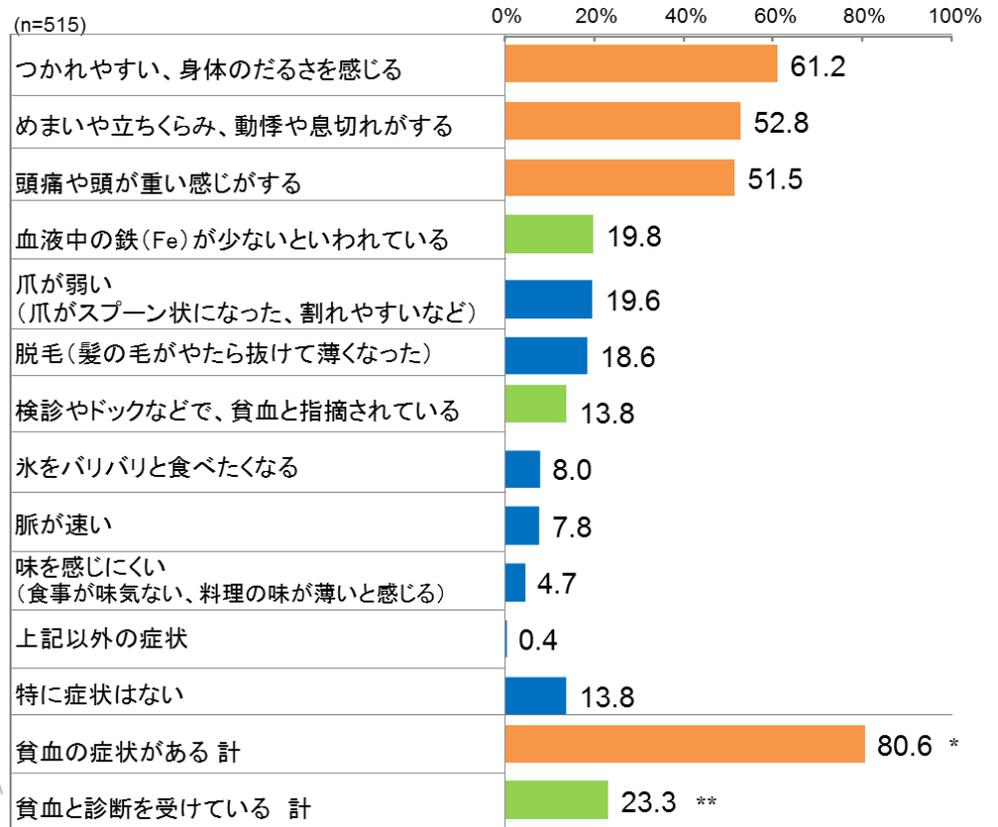
* 「つかれやすい、身体のだるさを感じる」「めまいや立ちくらみ、動悸や息切れがする」「頭痛や頭が重い感じがする」の 3 つの貧血に関連した症状を 1 つでも選択したサンプル数を集計して算出

** 「血液中の鉄(Fe)が少ないといわれている」「検診や人間ドックなどで、貧血と指摘されている」の 2 つの貧血の診断に関連した項目を 1 つでも選択したサンプル数を集計して算出

以下のような貧血に関連した症状はありますか？月経期間中かどうかは問いません(n=515)
(※「特に症状はない」を選択した場合を除き、複数回答)

貧血と診断を受けている女性
(n=120) の中で、「婦人科に相談したことはない計」

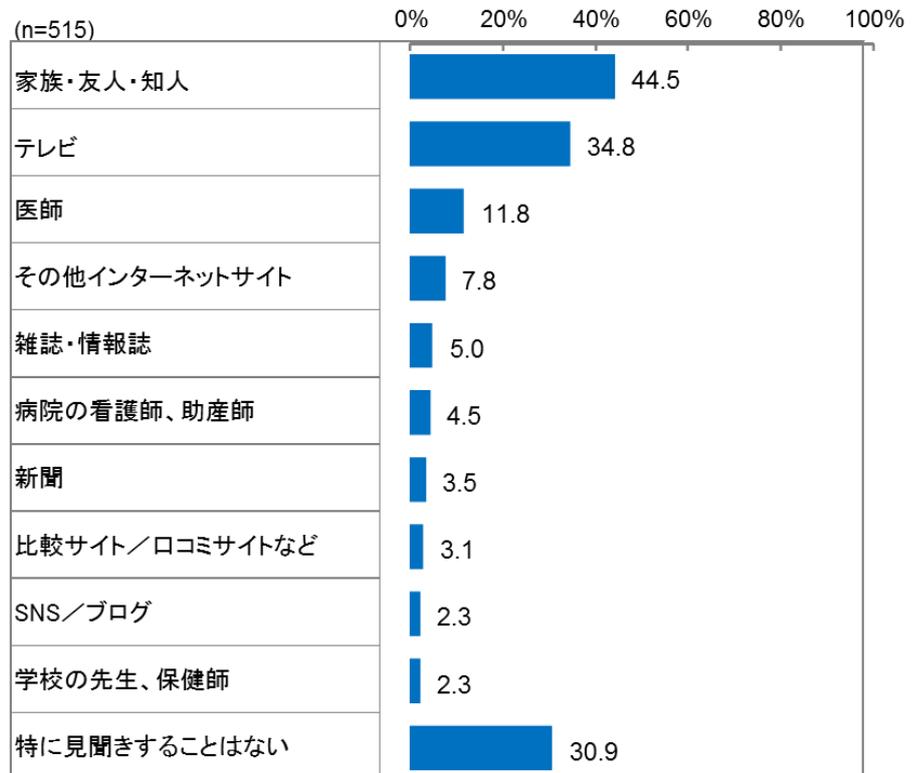
72.5%



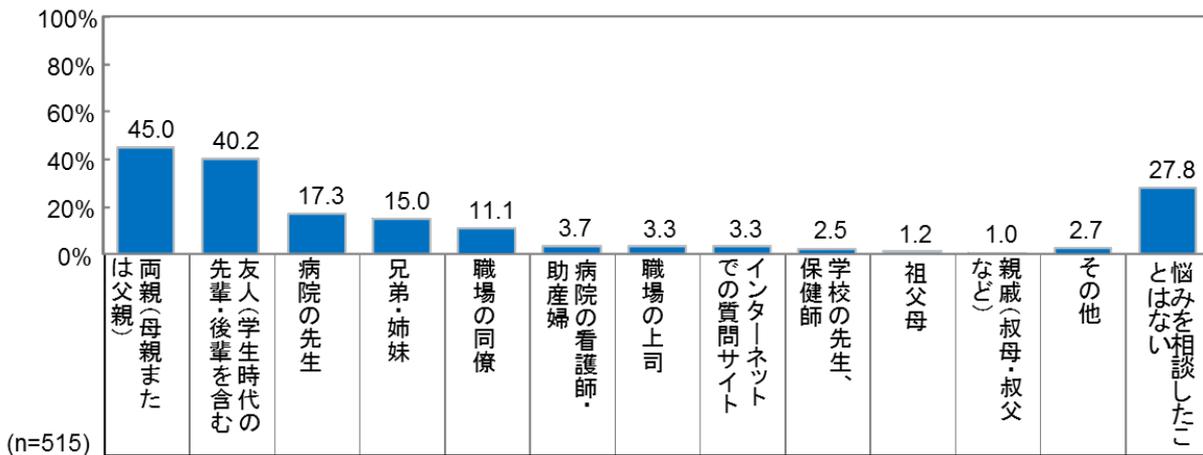
月経に関する情報源は「家族・友人・知人(44.5%)」「テレビ(34.8%)」が主。相談相手も「両親(45.0%)」「友人(40.2%)」が主で、誰かに産婦人科の受診を勧められたことがある女性は少ない
<過多月経に関する意識・実態調査結果⑥： 二次調査>

過多月経症状のある女性に月経の悩みを誰かに相談したことがあるかどうか質問したところ、相談した経験のある女性は全体の72.2%、約4人に3人にものびました。「両親(母親または父親)(45.0%)」「友人(40.2%)」「兄弟・姉妹(15.0%)」「職場の同僚(11.1%)」といった身近な家族・友人などが上位に並びました。相談した際に婦人科の受診を勧められたことのない女性は全体の48.9%と約半数を占め、多くの女性で婦人科受診の機会を喪失していることが懸念される結果となりました。

月経(生理)に関する情報を
 何から知る(見聞きする)こと
 が多いですか?(n=515)
 (※「特に、見聞きすることはない」を選択した場合を除き、複数回答)

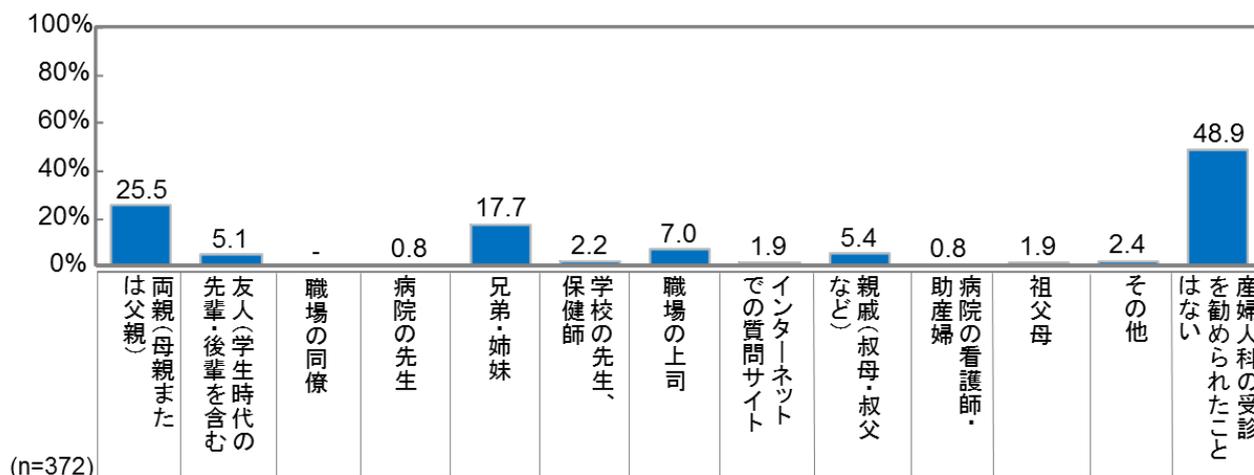


これまでに月経に関する悩みを誰かに相談したことはありますか?(n=515)
 (※「悩みを相談したことはない」を選択した場合を除き、複数回答)



これまでに月経に関する悩みを誰かに相談した中で婦人科受診を勧めた人はいますか？(n=372)

(※「産婦人科の受診を勧められたことはない」を選択した場合を除き、複数回答)

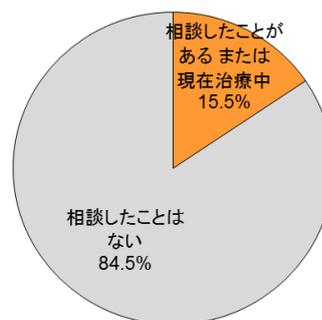


婦人科を受診しない理由について、「病院へ行くほどひどくない(62.5%)」「自分の経血量は特に多くないと思う(33.6%)」「経血量が多いことぐらいで行くべきところではない(26.0%)」と回答

<過多月経に関する意識・実態調査結果⑦： 二次調査>

過多月経症状のある女性に**経血量が多いことを婦人科で相談したことがあるかどうか**を質問したところ、「相談したことがある/現在治療中である」と回答した女性は15.5%にとどまりました。

月経時の経血量が多いことで、産婦人科(婦人科)の先生に相談したことはありますか？(n=515)

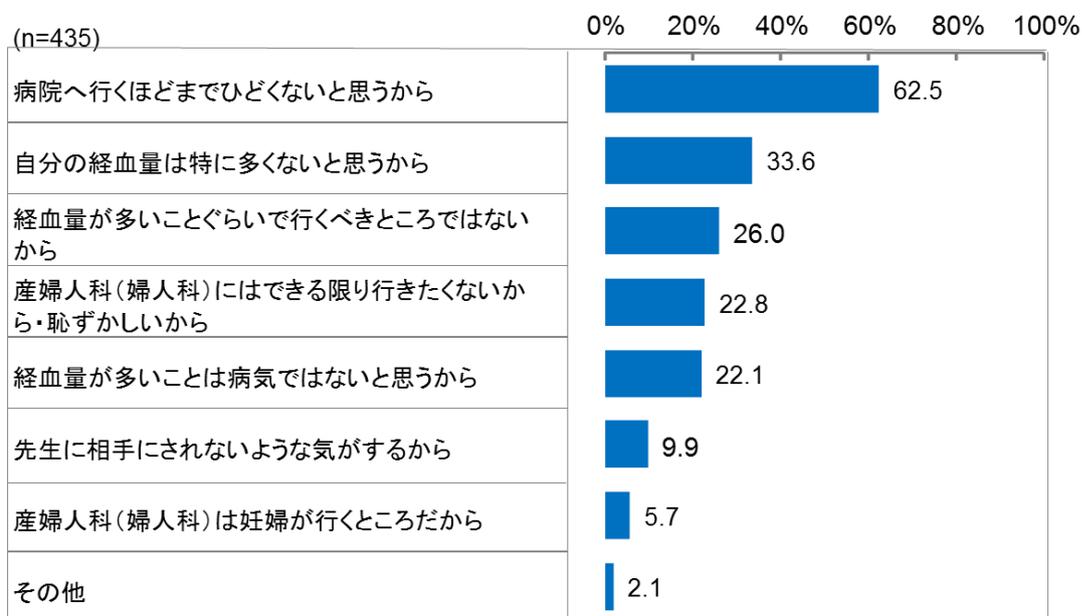


「相談したことはない」と回答した方に婦人科を受診しない理由を質問したところ、「病院へ行くほどひどくないと思うから(62.5%)」「自分の経血量は特に多くないと思うから(33.6%)」「経血量が多いことぐらいで行くべきところではないから(26.0%)」「産婦人科にはできる限り行きたくない・恥ずかしいから(22.8%)」などが上位にあがり、月経に関する誤った認識や婦人科受診への抵抗感が顕著に現れる結果となりました。

月経時の経血量が多いことで産婦人科(婦人科)の先生に相談したことがない方にお聞きします。

その理由を教えてください。(n=435)

(※複数回答)



【調査結果 まとめ】

- 一般女性の約4割に過多月経症状がみとめられました。過多月経症状のある女性では経血量の漏れを気にするだけでなく、仕事を休む、外出やスポーツなどを控えるなど活動的な生活に支障・制限を来していることがわかりました。
- 過多月経症状のある女性の約7割は、自分の経血量が多いのか少ないのかという症状を自覚するための判断基準を持ち合わせておらず、症状を自覚したとしても「我慢するもの」と放置していることが示唆されています。
- 月経に関する話題は家族・友人などごく身近な方としか相談されない傾向にあり、過多月経症状のある女性でも、経血量が多いことを相談した際に婦人科の受診を勧められたことのない女性は約半数を占めました。さらに症状ある女性の約半数は婦人科受診に抵抗感を示し、過多月経症状での婦人科受診率はわずか15%にとどまりました。多くの女性で婦人科受診の機会を喪失していることが懸念される結果となりました。

月経に対する誤認識や婦人科受診への抵抗感を払拭するためには、広く一般に月経トラブル・婦人科疾患に関する正しい情報が認知されることが大切です。バイエル薬品は女性の健康管理に関する情報提供活動を通じ、これらの正しい理解の浸透と婦人科受診のきっかけ作りに取り組んでいきます。

【調査概要】

対象： 一次調査： 18~45歳の月経のある女性

二次調査： 一次調査に参加した女性の中で以下の条件に合致し、本調査の参加に同意いただいた女性

-以下の過多月経の症状のうち、いずれか1つ以上あてはまる

「昼でも夜用ナプキンを使う日が3日以上ある」

「普通のナプキン1枚では1時間もたない」

「経血にレバー状の大きなかたまりが混じることがある」

地域： 全国

方法： インターネットによるアンケート調査

時期： 一次調査： 2014年11月10日から11月11日

二次調査： 2014年11月11日から11月12日

有効サンプル数： 一次調査： 4,413名 / 二次調査： 515名

注) 本調査レポートの百分率表示は小数点第2位で四捨五入の丸め計算を行っているため、合計しても100%とならない場合があります。

バイエル薬品株式会社

2015年2月23日、大阪

Bayer Yakuhin, Ltd./Communications

この件に関するお問い合わせ先:

バイエル薬品株式会社 広報本部

中村 (Tel: 06-6133-7405), 広報本部 (Tel: 06-6133-7333, Fax: 06-6344-2179)

バイエル薬品株式会社について

バイエル薬品株式会社は本社を大阪に置き、医療用医薬品、コンシューマーケア、ラジオロジー&インターベンショナル(画像診断関連製品)、動物用薬品(コンパニオンアニマルおよび畜産用薬品)の4事業からなるヘルスケア企業です。医療用医薬品部門では、循環器領域、腫瘍・血液領域、ウイメンズヘルスケア領域、眼科領域の4領域に注力しています。バイエル薬品は、Science For A Better Life (よりよい暮らしのためのサイエンス)の企業スローガンのもと、技術革新と革新的な製品によって、日本の患者さんの「満たされない願い」に応える先進医薬品企業を目指しています。

バイエル薬品ホームページ:<http://www.bayer.co.jp/byl>

将来予想に関する記述 (Forward-Looking Statements)

このニュースリリースには、バイエルグループもしくは各事業グループの経営陣による現在の試算および予測に基づく将来予想に関する記述 (Forward-Looking Statements) が含まれています。さまざまな既知・未知のリスク、不確実性、その他の要因により、将来の実績、財務状況、企業の動向または業績と、当文書における予測との間に大きな相違が生じることがあります。これらの要因には、当社の Web サイト上 (www.bayer.com) に公開されている報告書に説明されているものが含まれます。当社は、これらの将来予想に関する記述を更新し、将来の出来事または情勢に適合させる責任を負いません。

資料 1

【用語解説】

月経随伴症状

月経前や月経中の不快な症状の総称。下腹部痛、腰痛をはじめ、乳房がはる、眠くなる、イライラする、倦怠感、下痢、便秘など、人によって、さまざまな症状があります。

鉄欠乏性貧血

日本人女性の鉄欠乏性貧血の罹患率 8~10%であるといわれています。血液検査(ヘモグロビン)の値で貧血の程度がわかります。動悸、息切れ、立ちくらみ、顔面蒼白、頭痛や頭重感、味を感じない、脈が速いなど、人によってさまざまな症状があらわれます。月経のある女性では、過多月経や子宮筋腫が原因となっていることが多く、原因不明であることもあります。

過多月経

月経の出血量が異常に多く、総月経血量が 140mL 以上のものをいいます。実際には患者さんの訴えで判断されるためそれほど厳密ではありませんが、通常その結果として貧血に陥っている場合が多いといわれています 1)。子宮筋腫や子宮腺筋症など何らかの器質的疾患を伴うもの(器質性過多月経)と器質的疾患を伴わないものに分けられます。

月経困難症

月経時に強い下腹部痛や腰痛などが起こり、日常生活に支障をきたし治療の対象となるものをいいます。月経開始直前から月経中に、就学・就労など日常生活に多大な支障をきたし、女性の QOL に大きな影響を及ぼします。子宮内膜症や子宮筋腫など何らかの器質的疾患を伴うもの(器質性過多月経)と器質的疾患を伴わないものに分けられます。

子宮筋腫

子宮の壁(筋層)にできる良性腫瘍で、悪性化することはまれです。大きさは米粒ほどのものから、人の頭ほどになるものまでさまざまです。女性ホルモンのエストロゲンが関与する病気で、閉経後は小さくなります。婦人科疾患の中で最も多く、成人女性の 4 人に 1 人がかかっているといわれます。無症状の場合も多く、子宮がん検診や妊婦健診のときに偶然見つかるケースもあります。また不妊や流産の原因にもなります。

子宮腺筋症

子宮内膜とよく似た組織が、子宮子宮筋層の中にできる病気です。子宮内膜は月経ごとに増殖し、はがれて出血を起こしますが、子宮筋層の中にできた子宮内膜とよく似た組織も同様に、月経のたびに増殖、出血を繰り返します。月経痛や過多月経を伴うことが多いとされます。不妊の原因となることもあります。

参考

NPO 法人 女性の健康とメノポーズ協会編著：年代別 女性の健康と働き方 マニュアル ワーク・ライフ・バランスとヘルスケア
鉄剤の適正使用による貧血治療指針 改訂第2版 日本鉄バイオサイエンス学会 治療指針作成委員会編(2009), 株式会社 響文社
産婦人科用語集・用語解説集 改訂第3版 日本産科婦人科学会編(2013), 公益社団法人 日本産科婦人科学会事務局